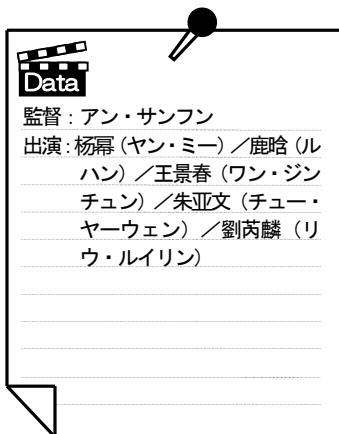




みどころ

盲人は健常者以上に触覚、聴覚、嗅覚等が鋭いから、意外に「見えない目撃者」の証言能力は高いのかも？他方、「百聞は一見に如かず」とほざく若者は、懸賞金欲しさのいい加減な証言・・・？

そんな対比の中、ストーリーは世間を騒がせている「女子大生誘拐事件」と絡めて、意外な犯人像を特定していくことに……。こりゃ面白い！こりゃ必見！

犯人逮捕劇のスリルとサスペンスも相当なものだが、本作のオールハッピーエンドは少し甘すぎかも・・・？

———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— * ———— *

■同じ韓国人監督が、韓国版から中国版へ！■

2011年に韓国で公開された韓国人のアン・サンブン監督による韓国映画『ブラインド』（11年）は、R-18指定ながらも236万人の観客を動員し、主演したキム・ハヌルが第48回大鐘賞映画祭で最優秀主演女優賞を受賞した。『ブラインド』というタイトルからわかるとおり、同作は盲目のヒロインがある事件の目撃者になるという、およそありえない発想でオリジナルな物語を創り出したもので、脚本のチェ・ミンソクが最優秀シナリオ賞を受賞したのも当然。

私がひいきにしている杉野希妃をはじめとして、近時は日本の監督や俳優もアジアの才能を結集した映画に参加しているが、本作はその『ブラインド』の“中国バージョンアップ版”。私としては、アン・サンブン監督が中国と組むより、日本と組んでほしかったが、近時の日韓関係の悪化ぶりと韓中の親密ぶり（？）を見れば、アン・サンブン監督が中国

(資本) と組んだのもやむをえない・・・？ “日本バージョンアップ版” なら、主演女優候補として例えば仲間由紀恵、北川景子、堀北真希、上戸彩等が思い浮かぶが、中国バージョンアップ版でアン・サンフン監督がヒロイン路小星（ルー・シャオシン）役に選んだのは、新世代の四大若手女優 “四小花旦” の一人である楊冪（ヤン・ミー）。中国の「ドラマの女王」として君臨している楊冪（ヤン・ミー）を見るのは本作がはじめてだが、彼女も2005年に北京電影学院を卒業しているから、その演技力の確かさは折り紙付きだ。盲人は、視覚のない分を補うため、触覚、聴覚、嗅覚等の感覚が健常者より鋭くなるそうだが、さて唐峥（タン・ジェン）（朱亚文（チュー・ヤーウェン））が運転するタクシー（？）に客として乗った時に否応なく体験させられた交通事故（ひき逃げ事故？）について、シャオシンの「見えない目撃者」としての証言能力のレベルは？

■□■いくらなんでも、こりゃやりすぎ！■□■

しっかり者の姉に対して、遊び人の弟。そんなケースは世の中に多い。もっとも、その逆もあり、その典型が『男はつらいよ』シリーズに見る、渥美清演じる、頼りない兄、フーテンの寅さんこと車寅次郎と倍賞千恵子演じる妹、さくらだ。

本作冒頭はしっかり者で警察学校の警察官候補生の姉シャオシンと、学校へも行かず学費も楽器の購入にあてて仲間とのバンド活動に精を出している弟の梁聡（リャン・ツォン）（劉芮麟（リウ・ルイリン））との「対決」シーンから始まる。僕は遊んでいるんじゃない！バンドのメジャーデビューを目指しているんだ！そんなツォンの訴えを無視したシャオシンは、自慢の（？）柔道のワザでツォンを投げ飛ばしてパトカーの中に入れ、車に手錠でつないだ状態で連れ戻そうとしたが、ここまでやるのはいかげなもの・・・？

こうなりゃ、ツォンにも意地がある。何が何でも脱出しようとしたツォンは「車を止める、止めなければ・・・」と言うや否や、アクセルを踏みハンドルのまま動かそうとしたから、シャオシンの車は大混乱。道路上を暴走したあげく、ガードレールにぶち当たり、シャオシンは運転席から投げ出されたうえ、車は今にもガードレールから下に転落しそうになったから大変だ。手錠のため車から脱出できないツォンは必死にシャオシンに助けを求めたが、意識朦朧状態の中で必死に身体を動かそうとしてもシャオシンの身体は自由にならなかったため車は転落し、ツォンは命を落としてしまうことに・・・。そのうえ、この事故によってシャオシンは失明したばかりか、警察学校もクビになってしまい、今は失意の中、心に痛みを抱えたまま、暗闇の中で生きる状態に・・・。

本作の状況設定はこれにて十分明らかだが、いくらしっかり者の姉と遊び人の弟とはいえ、いくらなんでも、こりゃやりすぎ！

■□■にわか雨、タクシー、順番待ち。そこから物語が・・・■□■

日本でもにわか雨が降るとタクシーを拾うのに一苦労するが、日本とは比べものになら

ないほどタクシー料金が安い中国では、その大変さも比べものにならない。しかも、日本と違って中国では、ちゃんと並んで順番待ちをするという習慣（マナー）に乏しいから、待っている客同士のケンカは起こるし、目の不自由なシャオシンを優先させてあげようなどという思いやりのある客は誰一人としていない。そのため、とうとうシャオシンは順番待ち（？）の最後の一人になってしまったが、それでもやっとタクシーがやってきたから、よかったよかった。しかも、このタクシーの運転手は、後部座席に座ったシャオシンに対して「コーヒーはどう？」と言って紙パックのコーヒーを手渡してくれるほど親切だったから、さらによかったよかった・・・。

そう思っていると、運転手が後部のシャオシンに気を取られよそ見運転をしたため突然急ブレーキをかけたが、傘をさした女性をはね飛ばして停まったから大変。もっとも、目の見えないシャオシンには一瞬何が起こったかサッパリわからなかったのは当然だ。そんなシャオシンに対して運転手は「犬をはねてしまっただけ」とシャオシンに対して説明していたが、さてそれはホント？もちろん、私たち観客はこの交通事故の一部始終を目撃しているが、シャオシンはまさに邦題どおり「見えない目撃者」。それを良いことに、運転手は負傷した女性をトランクの中に入れて事故現場を離れてしまったが、目の見えないシャオシンでもこれは明らかに人身事故だと判断できるものだったことはまちがいない。

そのため、シャオシンは「目撃者」として警察に情報を提供したが、シャオシンが盲人であることを知った警察官が聞く耳を持たなかったのは仕方ない。しかし、シャオシンから「あなたの年齢は35歳くらい」「身長は175cmくらい」「あなたは右ひざが悪いでしょう。それは歩く音でわかる」等の的確な指摘を受けたベテラン刑事の魯力（ルー・リー）（王景春（ワン・ジンチュン））は、シャオシンの「見えない目撃者」としての証言能力の鋭さ、確かさに興味を示したから、以降犯人捜しは順調に進みそう・・・。

■別々の目撃証人が登場！その証言はより具体的だが・・・■

本作のストーリーが面白いのは、もう一人の目撃者としていかにも遊び人風の若い男、林冲（リン・チョン）（鹿晗（ルハン））が警察に出頭し、「あの車はタクシーではない。外車だ。車種はゴルフ6だ」と、より具体的な証言をしてきたこと。しかし、これはシャオシンの証言と真っ向から対立するうえ、「犯人の身長は180cmから183cm」「右手に時計をしていたから左利き」「タクシーは皮張りの高級車」というシャオシンの的確な証言（？）によって、今や「見えない目撃者」の証言の正確性を全面的に信頼しているルー刑事の目には、リン・チョンの情報は懸賞金目当てのデタラメなものとしか見えなかった。

このリン・チョンを演ずるルハンは韓国人の俳優兼歌手で、新世代のアーティストとしてもすごい人気を誇っているらしい。張藝謀（チャン・イーモウ）監督がマット・デイモンを主演に迎える最新作『長城（The Great Wall）』（16年）にも出演するそうだから、すごい。そんなルハン演ずるリン・チョンは警察（ルー刑事）の想定外

の対応にふてくされながら、再度現場に赴き自分の証言内容を確認したが、その時突然あの犯人から襲われたから、その後のストーリーは俄然サスペンス色とミステリー色を強めていくことに。

■女子大生連続失踪事件と関連が？スリラー色満載に！■

シャオシンが巻き込まれたタクシーの人身事故と時を同じくして、韓国では女子大生連続失踪事件が連日ニュースになっていた。そこでシャオシンが思い出したのは、雨の中でタクシー待ちをしていた女性の1人が、「アプリで連絡したのに・・・」と何やら不満気にスマホで連絡を取りながらタクシーに乗り込んでいたこと。また、そういえば自分を乗せた車も偶然通りがかったタクシーではなく、待ち合わせの車だったような気が……。さらに、いくら親切な運転手でもタクシーの運転手が客にコーヒーを渡すことはありえないのでは？ひょっとして、あの時感じた変な臭いは、コーヒーに混入させた麻酔薬の臭い・・・？

世の中を震撼させた猟奇誘拐事件をテーマにした映画は、『コレクター』（65年）等たくさんある。そしてそんな映画では、なぜ犯人がそんな行動に走るのかという心理分析が大きなウエイトを占めることになる。しかして、本作後半はそんな視点から、シャオシンがタクシー運転手と思い込んでいた男タン・ジェンが少しずつその素顔と本性を見せながら登場するので、そのキャラクターに注目！ちなみに、シャオシンはかわいい弟を自分のミスによって失ってしまったが、本業は整形外科医であるタン・ジェンもある事件でかわいい妹を失うというつらい経験を。もちろん、そうだからといって次々と女子大生を誘拐してもいいわけではないが……。

■この犠牲、あの犠牲を経ての犯人逮捕は？■

本作の原題は『我是証人』。これは、「私が証人です」という意味。したがって、「見えない目撃者」としてのシャオシンと、嫌味のようにシャオシンとルー刑事に対して「百聞は一見に如かずですよ」と言いながら、「あの車はタクシーではない。外車だ。ゴルフ6だ。」と具体的な証言をするリン・チョンの、どちらの証言が信用できるのかをめぐる本作中盤の展開は非常に面白い。そして、予想外(?)にシャオシンの証言がまちがいで、リン・チョンの証言が正しかったことが明らかになるにつれて、ゴルフ6を運転している男タン・ジェンの本性が少しずつ明らかにされ、後半からクライマックスにかけての犯人逮捕劇へと展開していくのでそれに注目！

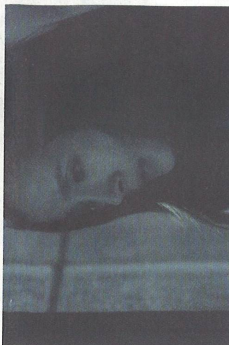
私が意外だったのは、この犯人逮捕に向けた追及劇の中で、一步も二歩も先の手を読んでいるタン・ジェンの持つメスによって、その本拠地に乗り込んだルー刑事が刺されてしまうこと。さらに、シャオシンの危機を救うべく現地に駆けつけたリン・チョンも、あえなくタン・ジェンのメスで刺されてしまうことに。こうなると、目が見えないハンディキ

ヤップを持つシャオシンはタン・ジェンから逃げるのが大変だが、スクリーン上では『暗くなるまで待って』（67年）で盲人に扮したオードリー・ヘプバーンが見せた、盲人特有の抵抗力和同じように、シャオシンも体を張ってよく頑張るので、それを応援したい。

そんな中で、無事ハッピーエンドを迎えることができたのはめでたしめでたしだが、さあ、そこにルー刑事やリン・チョンは（再）登場するの？そこらあたりには少し詰めの甘さ（?）を感じるが、まあハラハラドキドキの「見えない目撃者」のラストはこんな甘ったるいハッピーエンドでいいのかも・・・。

2016（平成28）年3月17日記

著者 見えない目撃者



盲目のヒロインが事件の“目撃者”に。韓国映画を中日でリメイク

原題：我是证人
監督：周冬雨・安・
サンソン
出演：杨幂・鹿晗
／朱亜文／王景春
／劉芮麟
製作年：2015年、
中国・韓国合作、
112分
配給：ギャガ・プ
ラス

る。逃げ出そうと姉からくっつかれを奪おうと立ち上るシャオ。車は暴走し、大事故に発展。この事故でシャオオハは失明し、鑑察学校もくじけになり、失意の中、暗闇の中で生きる状態に…。

おる陸の口」やうに一瞬の場
に順應待たせやうとシヤ大へした
が、目の不自由なくは覺えられ
たおちもちなりといふに、眼くら
ひのおちぬは誰一人いかにない
。やうといふのやうに、人が難
むといふにあらうたるおちの
間、車に足がかりつゝの急停
車。これが交通量増したから
たぬ大要。シヤ大へした將に
「言えない目撃者」となる。や
がて、やう一人の目撃者として
疑ひ人風の若し男といふ、サミ
が警察に出頭し「言はざる一
人ばかり、外車のナンバーは」
と風采的な証言をし、二人の
証言は真つ同なりた。だが
そこから運転手の素姓が徐々に
明らかになる。言へば、眞實、職
業、眞實等の感覚が鋭くともな
うたから、睡國では體裁毒上
の力を發揮してゐるのだが、睡
國に犯人と対峙するシヤ大へ
は果たらない。韓國版、日本版
は比しなから素直なだ。

今秋、哲明里事件に関連した「**『言えなく目撃者』**」は本作、2011年に韓国で公開された韓国版のあと、つづいて監督による韓国版画「**『言えなく目撃者』**」のつづき版が、15日には同監督が「**『言えなく目撃者』**」の邦題で中国版を公開している。冒頭のロケシーンの事件の目撃者とはなっている。おぼろげながら登場していたのは物證を伴った。今回は、中国版（原題「**『言えなく目撃者』**」）を鑑賞する。

いかりで、鐵道學校の警察
員候補生の姉・サオシといふ、学
校でわが子と學費も楽器の購入
にまで仲間のバツトと活動に精
を注いでゐる弟のシツキ。ある
日、スシヤーチンローを目標と
してゐたといふシツキの訴えを無
視したシツキといふは、義理の技
でシツキを投げ飛ばして、ペー
カーに乗じて、手錠で車内につ
いた状態に家に連れ戻された。

熱血并護士

平章坂

34 母国を懐く



映画を斬る』シリーズをはじめ映画に関する著書多数。(公社)日中友好協会参与、NPO法人大阪府日中友好協会理事。

(たかね・しちろう)
1949年愛媛県松山市生まれ、大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会「石川賞」、同年に日本不動産学会「実務著作賞」を受賞。「坂和の中国電影大観」(2004年)、『